

核は
どうなったか
!!?

ワタシが
生涯最後まで
とりくんだ
核兵器廃絶運動
は、



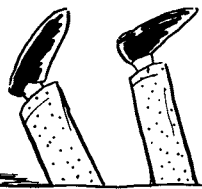
「ラッセル・アインシュタイン
由緒書は
バカウオッシュ会議は、
2000年代までには、実を
たすんだらどうか？」

核頭はまた
5万発
残っており
ます。

一九九二年の
統計だけど

一九八九年
夏、核実験
やま国が
ありませ

それで、まあ、
お知恵を拝借
したく思います。



こな訳で

バントラン ラッセル 講義

トト
トトトトトトトト

梅太郎



現代世界は
対照的な二つの
危険に直面
している。

核兵器と
人口激増との
危険である。

そしてその
両者とを理致で
苦慮せよ。

人口増の圧迫が生活窮乏化、
飢饉状態から戦争を引起こすのは
事例ではない。

そしてひとたび
その粉子手に核が
持ちこまれる事件に
なると

文明は問はずい
なく壊滅を
たかま



核兵器の戦禍には
交戦国も中立国も
その放射能と死の塵
大規模の環境破壊
という観点から
被害の差はない。

現代世界に
おける唯一の
安全保障は核
戦争の手段を
放棄すること
である。

また相互不信
あふれどおこま
民族的国家的
歪んだ偏見の
トリスを捨て

ラッセル
卿

卿

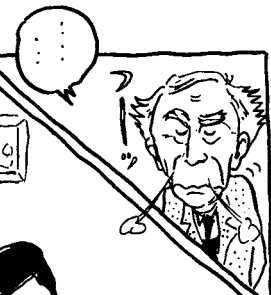


...



それはわたしの
個人的な体験で
一七〇一年のはじめ

当時同居しては
師ホワイトヘッドの
居間で起った
事件だった。



……



例の
ハナミとして
下すよ

……
なにかね



ほふ、
例の帽リ
のハナミ……

……
例のハナミ、
とは？



……
……
……

……
……
……

……
……
……

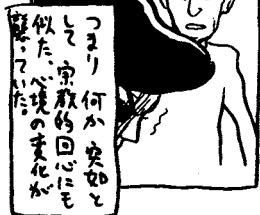


けれども夫人の苦しみ
を小まめに察したりに
した五分間の終りに、
わたしはもうたく違つた
人間になつてたのだ。



……
……
……

……
……
……



つまり何か突如として
宗教的回心にも
似た、心魂の変化が
起つていた。

かたしたちは
何という
孤独にとりかこ
まれていることが

この巨大な
宇宙の
ちりのような
ひとかけら

そのひとかけらの
地球に無意味にも
住みついているわい小な
人間ひとりごとりが

わたしは
その時その事象に
勿論で覚醒した

何という
宇宙の孤独に
とりかこまれているか
その魂の游しは
耐え難いものだ。

この孤独を世間の雑音と
して、いたかりを持ち合っ
ていられないか。
この静寂を少しでも知れば
ちかみよ

以来、
わたしは
その静寂に
かこまっていた。

ヤて。

必要なことは
ふつうの人
ふつうのものまじ
方に変化が起るこ
とである。

そして
わたしは
次のまうに住んで
いる。政治家たちは
知ること。

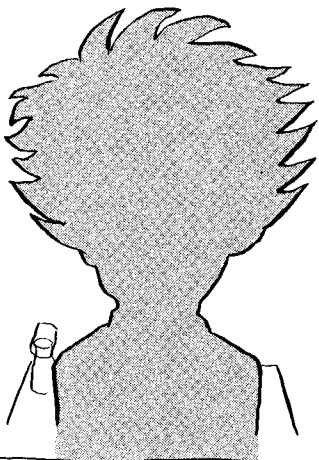
「自分の利益を
公正に評価する」
といふこと以上に
必要なことは何もない

と。



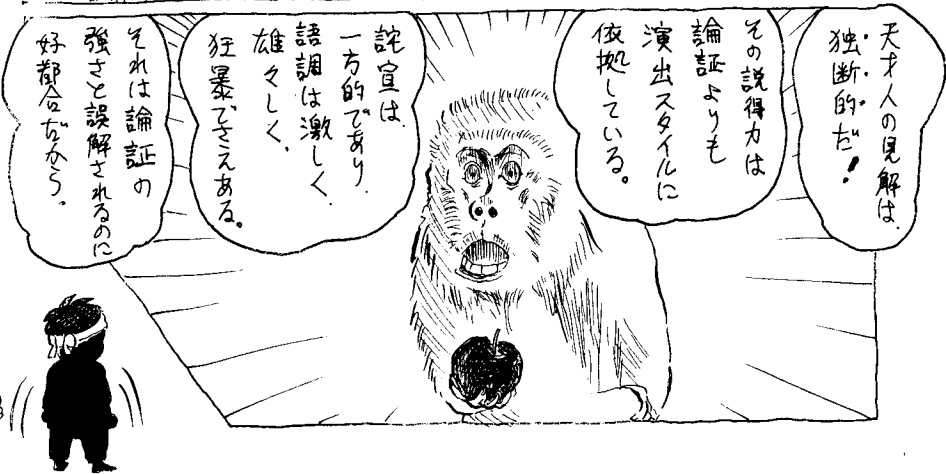
義講セルフラッシュ

その2



梅野 誠







その時代の
倫理を
熱烈に擁護して
擁護し

古くから考えて
新しい倫理の名で
隠れまわりなさい

その表現の修辞で
自分の都合を隠す
不器用

人権理解者の
欠点を甘く見かけず

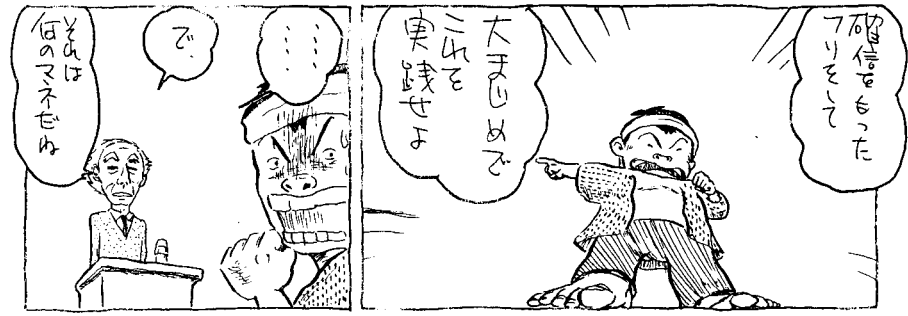


証拠のつらくな
余計なものば
あきらめたいえ

女をこきおろすと
理性を無視し

「神がかつた
信念のせいで」
だけほま

「まげん!!
まげん!!」



確信をもった
フリをして

大まかめに
隠れさせろ

で?

それは
何のマネでも

「その時代
の倫理を
スバクルを
工夫しておれ
」
「その時代
の倫理を
スバクルを
工夫しておれ
」

「しかし
は」
「その時代
の倫理を
スバクルを
工夫しておれ
」

「ま
ごころ
」

「今めたが
はなれた
時代は
すなは
」

「それは
向連になん
時代の義理も
たたり
木々になる
」



さういふ
天才人になる
@の目的は
私利は

弾劾の
技術の極の
その得るまで



読者下
この世の対人関係は
自分と他人との
関係で成り立っている
だから



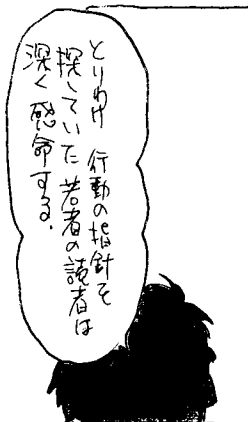
曰く、
性情が可憐な
人々

曰く
視野の狭い
人々

本気で
必死に
努力する
人々
百理を
思案する
人々



読者は
一見
読者の
心を
つかむ



とりわけ
行動の
指針を
探る
読者の
深層
心理

この
ヤリ口は
格別の
新味は
ない

めたし
の祖父の
時代に
カーライル
如

めたし
の父親の
時代に
ニーチェ
如

この
ヤリ口は
格別の
新味は
ない

この
ヤリ口は
格別の
新味は
ない



この
ヤリ口は
格別の
新味は
ない

この
ヤリ口は
格別の
新味は
ない

確かに
何者も其除おもひ
何事も其除おもひ

この舞臺は
除けやめ
文藝の舞臺は
おもしろい
に

また
おもしろい

おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい



おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい

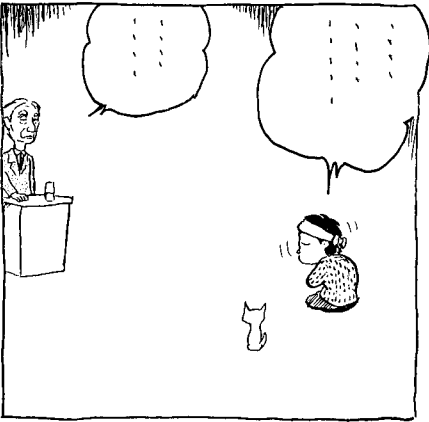
倒せば
恐怖は
この国は
この国は



竹筒に
なり
自ら
おもしろい
おもしろい
おもしろい



おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい



おもしろい
おもしろい
おもしろい

おもしろい
おもしろい
おもしろい



おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい

理性は二つ
力かもしはすが

ゆたは性慾もはく
合理を求むる。



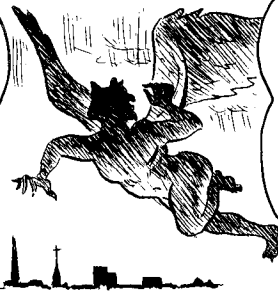
たて、たて
見張りのたて、たて、たて
人の心のたて

刺激を求め
じという深い衝動の
ある



何も無い
この世には

多くの人は
自分の性よりも
激情にたがう方が
多いと考へるのだ。



（かたが）
SOSが
戦争と飢饉と絶滅
のまのこの世は

彼もやがて
理性の捕囚に
したがうが
それだと考へるよつに
なつた。



しん
ニヤ
『世界は狂った』
想像のまの世

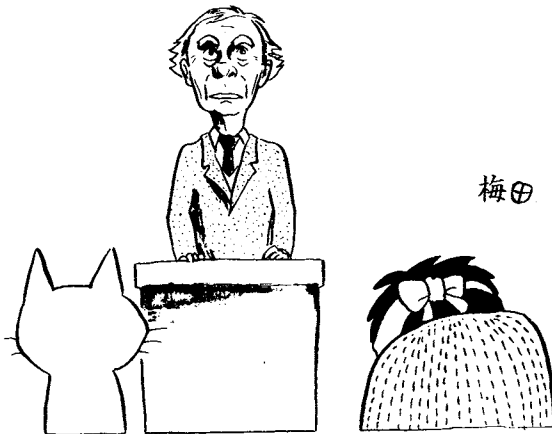
つん
つん
つん
つん
つん

つん

B. ラッセル講義

antrand. Russel その3

梅田 梅太



同種間で、大規模な殺し合いをするのは人間だけで、動物は決して争わない、とか

戦争は人間だけが背負う業である、などと

二つは明らかに誤りである。

馬鹿げた思い込みをもつ人間がいるが

ジャングルの中でも同種間の激しい生存競争がある。

蟻や蜂の行動にも二つが見られるし、

タチは蜂のうちから兄弟殺しが見えるライオンやサルも兄弟殺しをやっている

つまりある程度の密度で暮らす生物は、植物も含めて、大なり小なりの同種間競争は一般的に認められる。

過去百年にあたる
人道主義的な多くの
文明進歩を生んできた。



人間性の内にある
共感・思やりの心構こそ



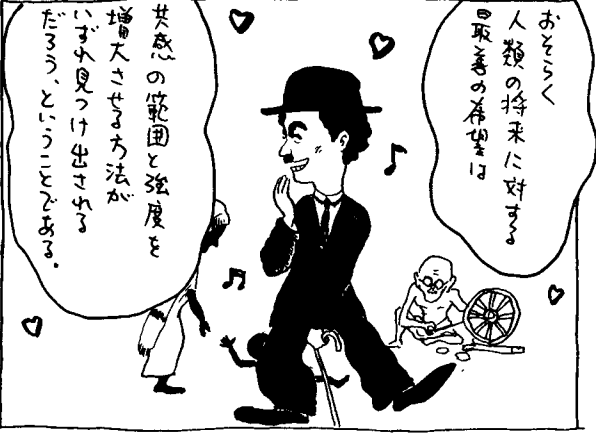
従って
わたしは、

知性と想像力を
持ち得る人間で
あはばこそ

このような闘争を
回避し得る
生き物だと信じた。



また
送らば



おそろしく
人類の将来に對する
取巻の希望は

共感の範囲と強度を
増大させる方法が
いさ小見つけ出される
だるう、といふことである。



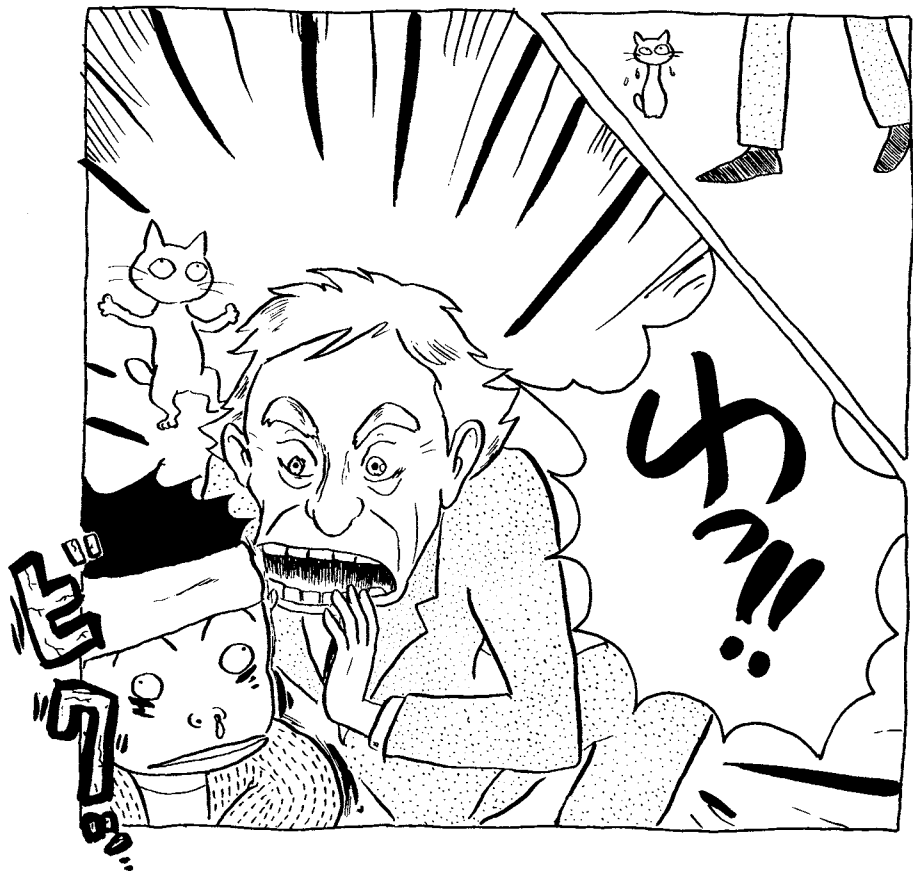
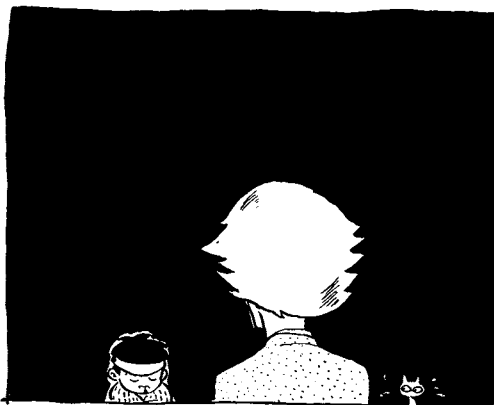
共感の範囲を
限定することから



例えば
「自分の身内」
「自分の処属する階級」
「国民」
「自分と同じ信徒」

すこす対立する
相手側も同様に
限定するから
共感と善意とが
相殺され

人間生活の一切悪
不信、残忍、抑圧、迫害、
そして「戦争」が起まる
原因となる。





驚いた
かぬ

…の

こゝは
何という仕打
ち…

君は今
刺激を求め
るほど退屈し
たろう。

いいえ
めんどろも
ございま
せん

しかし
ウトウト
していただ
はないか。

いいえ
ただ、難し
く頭が
ぼんやりし
て…

ホーッホホ

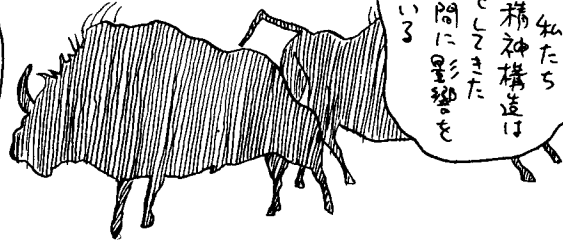
なに、君は
私自身が
退屈して
いたのだら
う。

退屈からの逃走が
ほとんどあらゆる人間の
力強い欲望の二つで *dominance*
間違いない。

酒・煙草・賭博・戦争などは
人々に刺激を与えることによつて
興奮欲を満足させる。

この
刺激を求め
る心の中の
根深いものが
ある。

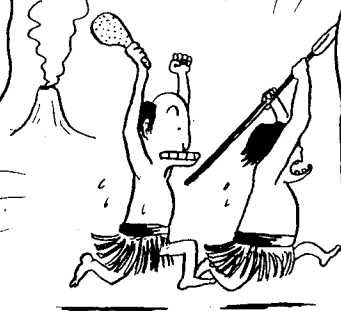
思うに私たちが
人間の精神構造は
狩猟を止めた
長い期間に呈露を
受けている



すなわち狩猟時代の
原始的な人間にとって
生存する営みだけで
精一杯であった

退屈する時間も
精力もあり得なかった。

山だしたちの精神構造は
きめめて鋭い肉体力働に向いて
いると思われる。



しかし
曲農耕生活に
入ると、

人間生活の
まなしを思案し
神話や自然の奇蹟の
体系を創案し

来世のことで夢見する余暇がここ
『退屈を感じる
ようになった。』

人間の闘争心も
興奮欲に根ざすもので
あつたらう



無常で
建設的な
捌け口を
用意するたぬの
苦勞がなされる
けいばならぬ。

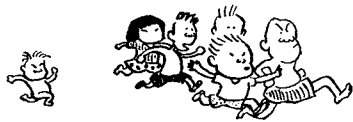
これを従来の
モラリストや社会
改革家たちは
軽視してきた。

戦争は人間の
最高の能力を引き出す
上で必要だとかいう人が
いるが誤りである。

人間の闘争本能を
敗者に何ら全大な
傷害も与えない価値
ある競争へと振り向け

衝動には衝動をもって
誘導し、克服する羽る慣性は、
やる気にならば達成可能である。

運動競技・登山・政治
芸術その他の領域での
創造を目指す競争を
より振興させたい。



人間に可能である
幸福は知性の助けに
よって獲得できる
達成しとかなうならば

人間は動物の
恩恵のない
幸福に戻る
ことはできない。

とよは人間に最も特有の
その知性が過剰であるため
びなく、まさに不足した
からに他ならない。



そーそー
闘争本能

そー例え
バレーボール

ことに
国際マラソンは
燃えよ。



ホン
ポン

よかたぬ

さらに
全世界の人々が
相互理解を十分
果たさないのは

言葉のまじいとてに
教育が国家主義を
強調するからである。

国家の影を
受けていない幼虫は
まぶしくなる。



この事実が
これを証明して
くれる。

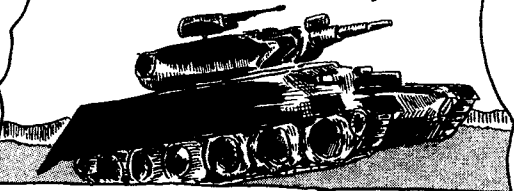
生まれ育った土地、
なつかしい家族や
近隣の人々への
愛情からほとぼし
家庭愛、郷土愛の根は



地理風土や
生物学的感情にある。
この素朴な愛情自体は
政治的なもの、経済的なもの
ではない。

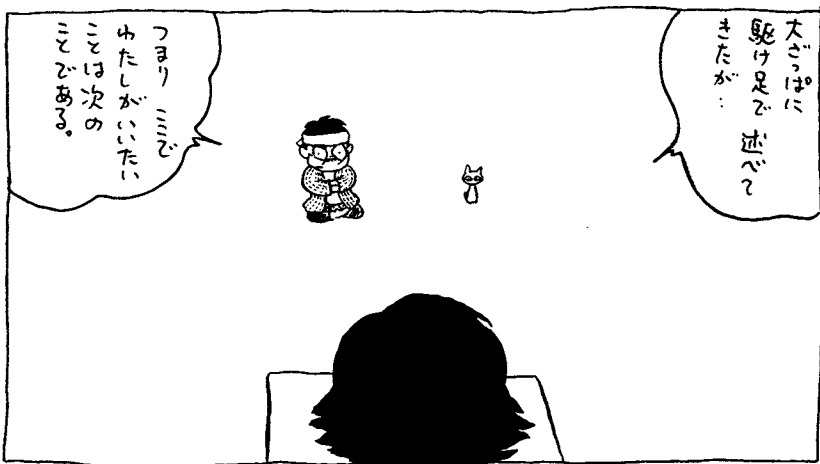
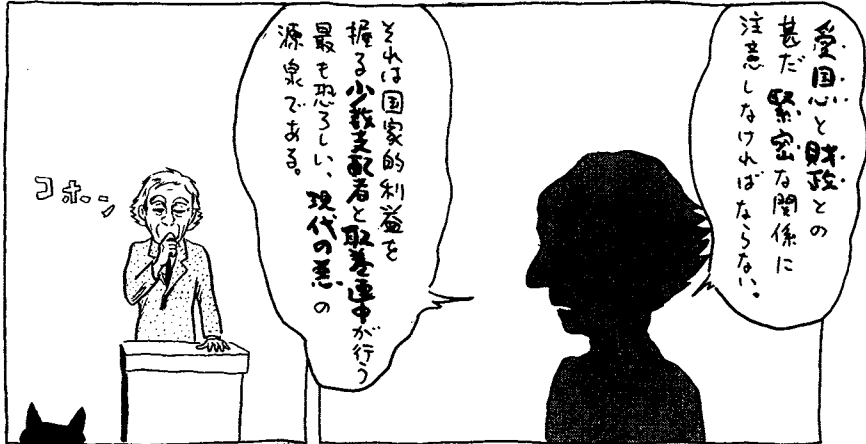
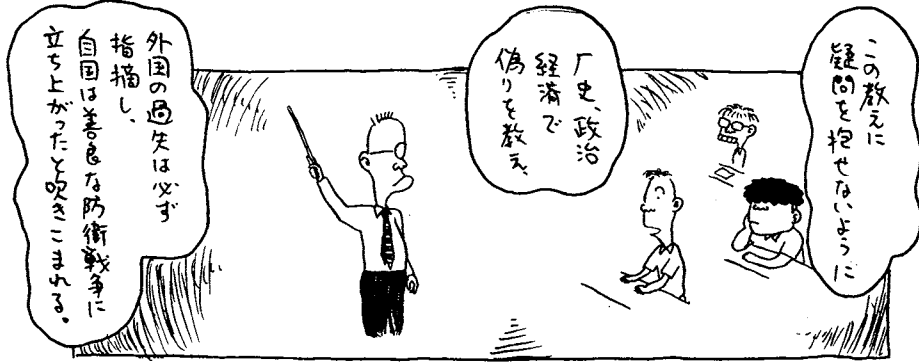
自分の国を
おもしろい感情であり
他国を排斥する
ものではない。
非難されるよはけも
ない。

しかし国家主義と、その
最も重要な社会的忠誠は
これとは異なる。

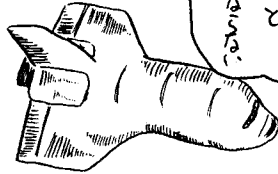


それは
彼らが所属する国家への
忠誠であり、
国家への義務は

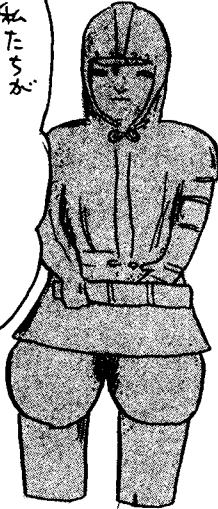
政府の命令通りに
行動することだと
教えらるる。



今や世界観を
技術的な次元に
見合っただものへと
変えなければならぬ。



私たちが
原始的衝動に安住・情動
してしまつてしまふ病根を
取りのぞかぬば、人類文明・文化は
破滅へ導かざることを。



広い範囲の共同・協力の方が
結局のところ有益だとわかつた時
政治的・経済的統一によって
人間同士間の闘いが時代錯誤
となり、終止することになる。

正しい教育が
その道を導かなくてはならない。



人間同士を相互不信に
引き回してゐる無知と愚かき狂信こそ
現代の敵そのものである。



